

平成 29 年 12 月の解説（府県天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、北日本を中心に強い寒気が流れ込み、全国的に気温が低くなりました。日本海から千島近海を低気圧が数回通過し、その後は冬型の気圧配置が強まって、北海道や東北日本海側では降雪量が多く、東日本日本海側では降水量がかなり多くなりました。一方、東・西日本太平洋側では、高気圧に覆われる日や冬型の気圧配置の日が多かったため、降水量は少なく、日照時間も平年を上回る所が多くなりました。沖縄・奄美では、寒気や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少くなりました。

中旬は、冬型の気圧配置が強く、西日本を中心に強い寒気が流れ込みました。北日本や東・西日本日本海側では降雪量も多く、12 日頃は日本海から千島近海を低気圧が発達しながら通過したため、北日本や東日本日本海側を中心に大雪や暴風雪となりました。日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、気圧の谷の影響も受けて、北日本日本海側では降水量がかなり多くなりました。一方、東北地方から近畿地方にかけての太平洋側では晴れた所が多く、東日本太平洋側では日照時間がかなり多くなりました。沖縄・奄美では、寒気の影響で曇りの日が多くなりましたが、湿った空気の影響を受けにくく降水量は少くなりました。

下旬は、前半は冬型の気圧配置が弱まり、本州付近は高気圧に覆われたため、日本海側でも晴れた所がありました。期間の中頃には、日本付近を低気圧が発達しながら通過し、西日本や東日本太平洋側でまとまった雨となりました。低気圧の通過後は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込み、27 日頃は北日本や東日本日本海側を中心に大雪や暴風雪となりました。沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けにくく、降水量はかなり少くなりました。

月平均気温は、強い寒気が断続的に流れ込んだため全国的に低く、西日本ではかなり低くなりました。月降水量は、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった一方、西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なく、北日本太平洋側では平年並でした。月間日照時間は、北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、東・西日本日本海側で少なかった一方、東日本太平洋側で多く、北・西日本太平洋側では平年並でした。降雪の深さ月合計は東日本太平洋側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なく、北日本と東・西日本日本海側では平年並でした。月最深積雪は、北日本と東日本日本海側で多いところが多くなりました。

【12 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年並の 84%、明後日予報は 82%で例年値^(注)より 1 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は北海道地方、近畿地方、中国地方、九州北部地方以外で例年値以上となりました。明後日予報では、東海地方と近畿地方以外で例年値を上回りました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.1 で、すべての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.2 で、すべての地方で例年値を下回りました。

(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2 月の天気予報の利用にあたって】

2 月は 1 月と並んで 1 年で最も気温が低い月ですが、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進むと、強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、低気圧通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がるなど、気温が大きく変化することがあります。また、低気圧が日本付近を発達しながら通過する場合、暴風や猛ふぶき、大雪、なだれなどによる災害が発生しやすくなります。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、気象情報に留意して下さい。また、日々の天気予報を利用して、気温の急激な変化にも備えてください。